



夢に向かって歩んでいますか？

甲府西高校に入学して半年が経とうとしています。高校入学当初に抱いていた夢や目標に向けて邁進していますか？ 5月の第1回定期試験で高校の勉強の厳しさを味わい、今度こそはと臨んだ今回の第2回定期試験。6月からの長期の学習内容に加え、試験科目も増え、思うような手応えも得られず失望している人も少なくないと思います。そんな時こそ、もう一度自分の夢や目標を再確認し、明日から始まる後期の第一歩を力強く踏み出してほしいと思います。



皆さんには「夢をかなえるゾウ」という本を読んだことがありますか？ジャンルはいわゆる“自己啓発本”ですが、人気の作品でこれまでに「夢をかなえるゾウ4」まで出版されています。人生に悩む主人公のもとにオジサン体型で関西弁を喋るインドの神様「ガネーシャ」が現れ、偉人のエピソードを交えながら教えを説き、主人公を成功に導いていく小説です。とにかく笑えて泣けて、そしてためになる本なのでオススメです！

そのガネーシャの教えは「靴を磨く」「コンビニでお釣りを募金する」「食事を腹八分に抑える」といった人生の成功には関係なさそうなものばかり。「人が成功するための方法はすでに証明され、すべての人が承知している。しかし、それを実行しないから多くの人は成功を掴めないのだ」とガネーシャは言います。失敗したとき、恥ずかしい思いをしたとき、人は変わろうと決意します。しかし、一晩寝るとその高ぶった気持ちは収まり、まあいいかとなってしまいます。本当に変わるために毎日少しずつの変化でも自分の中に起こしていかなければ成功への道は開かないのです！

「帰ったらすぐに机の前に座る」「10分だけ英単語帳を覚えてみる」「数学を1問だけ解く」といった小さな一歩の積み重ねを続けること。それが「ガネーシャの教え」そのものです。

一方、「やりたいことが見つからない」と悩んでいる人にもガネーシャは説いています。やりたいことを見つけるのにやってはいけない方法、それは「考える」こと。小さいころは誰でも、やりたいことがあればすぐやってみて「これ楽しいなあ」と判断していたはず。自分が一生懸命になれることは体験しなければわからない、失敗してもいいから頭で考えているより、まずは動いてみることが大事なんだ！と。 1年次主任 平岩岳実

～10月行事予定～

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	火	B	自転車ステッカー・ヘルメット点検週間	16	水	B	
2	水	B		17	木	B	IB履修相談会
3	木	B	芸術鑑賞会	18	金	B	授業公開 PTA理事会
4	金	B		19	土		
5	土		土曜講座	20	日		
6	日			21	月	A	第2回生活実態調査 あいさつ運動(～10/25)
7	月	A	きずなの日	22	火	A	
8	火	A		23	水	A	
9	水	行事	第28回健康の森ウォーキング大会	24	木	A	
10	木	A		25	金	A	
11	金	A		26	土		
12	土			27	日		
13	日			28	月	B	生徒総会
14	月		スポーツの日	29	火	B	
15	火	B		30	水	B	
				31	木	B	

保護者の皆様へ

2年次の履修本登録 11月5日が来年度の履修本登録提出日になります。文系・理系のコース選択や選択科目など、お子様の進路選択に大きく関わる登録となります。本登録後は基本的に変更が出来なくなりますので、御家庭で改めてよくご相談ください。何かご質問やご相談がありましたら、早めに担任まで御連絡していただくようお願いします。

☆裏面☆今回1年次所属の先生方に文理選択についてアドバイスをいただきました。来年度履修の本登録の際に参考としてください！ 【質問内容 ①高校時代は文系？理系？ ②文理を決めた理由 ③文理選択のアドバイス】

池田裕子先生（1組担任）①2年理系⇒3年文系

②当時就きたいと考えていた職業が医療系だったため理系（しかも物理選択）に進みました。が、そもそも理系科目が大の苦手だったため挫折し、3年になるときに文転をしました。
③興味・関心も大切ですが、やはり「適性」を無視してはいけません。また自分の性格は自分が一番よく分かっていると思います。恥を忍んで告白しますが、私は「今は理系科目は苦手だけど、これから努力すれば何とかなる！」と安易に考え、結局努力しないまま逃げるように文転しました（すいません）。自分で日本史、生物を学習するのは当然難しく、大学受験を考える際にも大きな枷となりました。自分の習慣を変えるにはとてもない覚悟が必要です。皆さんには後悔のない文理・科目選択をしてもらいたいです。（こんな話ですいません）

志村泉先生（1組副担任）①文系

②進学先が文系の学科だったことと、文系の科目の方が好きだったため。
③私は教育学部の音楽科に進みました。音楽科は基本的に文系で学んできた人たちが入学します。それは、入試の科目の関係上そうすることが多いのですが、中には理系で学んできたという人も稀にいました。入試に必要な科目を履修さえできれば、自分の興味に合った選択をするのも良いかもしれません。

田邊優樹先生（2組担任）①理系

②物理・数学に興味があつて極めたいと思ったため、理系にしました。みんなには内緒ですが、科学の公式や定理には発見した人や体系化した人の名前がつくことにロマンを感じていました。
③数学科あるあるですが、高校までの「数学っこ」と大学の「数学」では同じ科目とは思えないほど別物でした（大学数学もそれはそれで面白かったです）。大学は勉強をしに行く場所ではなく、学問を学び、研究する場所だと痛感しました。得意不得意もあると思いますが、入ってみて「何か違った」とならないように、もしくはなったとしても頑張るように、自分の情熱を注げるものは何か考えてみるのも良いかもしれません。

中島勲先生（2組副担任）①文系

②当時は外国語といえば英語という時代でした。英語について学びたい、英語教員になりたいとなぜか思っていました。
③文系だから数学は避けたい、理系だから国英は後回しにするというのはまだ早いです。「無用の用」という言葉もあるように、やっておいたら後々良かったとなることってあるものです。私も数学を最後までやっておいて良かったと、教員採用試験の時に思いました。

依田裕子先生（3組担任）①文系

②文理の隔てなく、どの授業も楽しんで受けていましたが、歴史、国語、英語が特に好きで、その勉強に重点が置ける文系にしました。
③自分の興味関心に従って選ぶのが一番です。さらに、その科目をわくわくしながら勉強している自分を想像してください。皆さんより長く生きてきた周りの人のアドバイスも聞きながらも、自分はどんな力を伸ばしていきたいのかも考えてみましょう。

保坂昂佑先生（3組副担任）①文系

②いざれかは高校の教師になりたかったので、得意分野（社会）のある文系になりました。
③将来何をしたいのか、どこ大学にいきたいのか、それを実現ために何が必要なのか（どんな科目を受けておいた方がいいか、学力は試験までにどれくらいないといけないか、高1までにこれぐらい必要か）、逆算して、選択することが大切だと思います。

松田光司先生（4組担任）①理系

②生物を学びたかったので、何の迷いもなく理系でした。
③仕事は手段に過ぎません。迷っている人は仕事から選ぶのではなく、「自己を知り、自己を深める」ことをお勧めします。まずは、自分が「何を大事にしているのか（価値観）」。次に、自分の「得意なことは何か（才能）」。そして、自分の「好きなことは何か（情熱）」を考えてみましょう。自分の得意なことが分からず人は、自分の欠点に「だからこそ」をつけて強みに置き換えてみるといいですよ。長所と短所は表裏一体、トレードオフの関係です。自分の好きなことが分からず人は、本屋・図書館に行きましょう。自然と手に取る本が好きなことです。 by『世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方』八木 仁平著

名取美和子先生（4組副担任）①文系

②基本的に文理の別なく何でも興味をもって授業を受けていましたが（成績は別としてね）日本史の先生の授業をもっと受けたいと思ったことと、当時、言葉の可能性と限界に興味を持ってしまったことが文系選択の決め手になったのかな。
③高校1年の時に外部の「文理適性検査」みたいなものがあって、向いている職業まで提示してくれたのですが…結果見事に文理50/50で役には立ちませんでした。得手不得手もありますが、結局、最後は今の自分が何を知りたいか、何を必要としているかが選択の要になるのだと思います。

志村美紀先生（5組担任）①文系

②国語が好きで、国語の教員になりたいと思っていたので文系にしました。+理系科目が苦手過ぎたため…
③結局、体操を本格的に続けるために体育大へ進学することにしました。体育は文系・理系どちらからでも行けますが、大学ではスポーツ史やスポーツ心理学などの文系科目、バイオメカニクスや運動学などの理系科目があり、どちらも学ぶ機会がありました。その時感じたのは「あ、物理って楽しかったんだな…」です。みんなに苦手な物理が楽しいだなんて本当にびっくりしました。文理選択に迷っている人は興味関心を大切にしてみてもいいかもしれません。少しくらい苦手な科目があつてもきっと頑張れると思います。

後藤詠一先生（5組副担任）①理系

②国語（古典）が壊滅的で歴史に全く興味がわからなかったので、理系にしました。
③1次試験の結果で工学部希望から教育学部の理科系に変更しました。合格の確率を上げるために動機が不純ですいません。